

スマイル

～子どもたちが安心して楽しく学校生活をおくるために～

文責 久保田

早いもので、明日、1学期の終業式を迎えます。昨年度に引き続き、コロナ禍での令和3年度スタートでしたが、子どもたちは、それぞれのクラスで、「安心・安全」に気をつけながら、日々の学習や活動を精一杯がんばりました。子どもたちの4カ月間の心身の成長は、大人の4カ月の何倍以上に匹敵します。明日は、「1学期、よくがんばったね。」と声をかけてくださいね。

さて、明日から長期の夏休みに入ります。ご家庭で、様々な計画があると思いますが、「安心・安全」に気をつけて、元気に過ごしてください。

今回のテーマ 「インクルーシブ教育」って何？

「インクルーシブ教育」という言葉を聞いたことがありますか。すでに、ご存じの方も多くいらっしゃると思いますが、インクルーシブ教育とは、「子どもたち一人一人が、多様であることを前提に、障害の有無に関わりなく、誰もが望めば、自分に合った配慮を受けながら、地域の通常学級で学べることを目指す教育」のことです。

つまり、「一人一人を丁寧に」と「みんなで一緒に学ぶ」の両方を目指す教育理念です。

英語では inclusive と表記され、「包括的な」「包み込む」という意味です。障害の有無によって、学ぶ場所が分けられるのではなく、一人一人それぞれの子どもの能力や困りごとが考慮された、「すべての子どものための教育」という意味で使われています。インクルーシブ教育の実現に向けて歩むのは、日本だけでなく、国際的な流れです。

以前は、障害のある人は、必ずしも社会参加できるような環境にありませんでした。障害のある人が積極的に社会で活躍できる環境づくりの一環として、一人一人の子どもに丁寧に向き合うインクルーシブ教育が推し進められています。

私たち教師も、そのような流れの中、日々の教育活動の中で、「インクルーシブ教育」を推進し、実践しています。子どもたちと向き合い、試行錯誤しながら、できることから取り組んでいます。

川原小学校では、「教室の前面の掲示物は少なくし、すっきりさせる。」・「全クラス赤色のチョークを見やすい赤色に統一する。」等、教室環境や学習環境にも配慮しています。

また、私たちが、「インクルーシブ教育」を意識しながら子どもたちと接することで、子どもたちも自然に「インクルーシブ教育」を受け入れ、お互いを「包み込む」学校生活を送ることができるようになるのではないかと考えています。

◆お尋ねやご相談は、いつでもどうぞ。

★川原小学校 892-0017 担当；山口・久保田・橋本